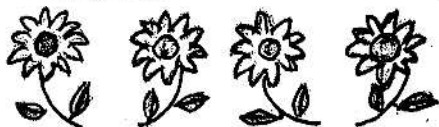


絵本塾 2017年  
おはなしのへやだよ！ 7月

かぞくのためのおいりのり

かぞくの みんなを ありがとう。  
一つの やねの下にすんで、  
いっしょにごはんを たべ、  
いっしょに はたらき、  
いっしょにあそび、  
いっしょに やすみ、  
なんでも いっしょに します。



神さま、  
わたしたちのおうちが  
お花ばたけのようでありますように。  
かぞくのみんなのあいと、  
神様のおめぐみで  
きぼうの つまった たねが  
しんせつと いやし という はっぱをつけ  
わらいの あふれる 花を さかせ  
へいわの 木に そだち  
ちえの みをつけますように。  
そのみを たべた 人たちが  
天ごくのおうちへの みちを  
あんぜんに たびを する ことができますように

(小さな おいりのたび いのちのことば社)

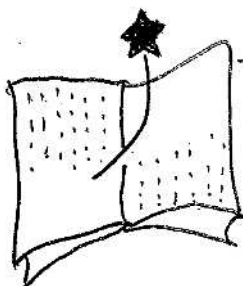


今年は気象の変化が極端で戸惑います。体調をこわさないように気をつけましょう。  
幼稚園児、小学生はあと2週間足らずで夏休みですね。ゆったり、のんびり・・・の時間を過ごさせてあげたいと思いますが、現実にはなかなかそうもいかないようです。親にとっても、子どもが夏休みをどのように過ごすかは悩ましい問題のことでしょう。夏休みが家族と親密に過ごす時、また良い体験が出来る時となるといいですね。安全で平安に守られますようにと祈ります。

(8月は休会です)

2017年 9月のご案内

日時 9月8日(金) 午前10:30~12:00 昼食  
場所 日本キリスト改革派 浜松教会 (お問い合わせ: 望月鈴子へ)  
(432-8022) 中区山手町45-3 ☎: 053・453・1694  
会費 500円 (一人でも親子何人でも) 講座、昼食、お便り  
<Part I> 一緒に遊ぼう <Part II> 絵本から考える  
手遊び、リズム遊び 絵本: おばあさんのひっこし 福音館書店  
絵本 エドナ・ベッカー 作 神沢利子・山田ルイ 訳  
パネル・シアター 白根美代子 絵  
他 テーマ: 年を重ねても幸せに・・・



心に語りかける絵本

“いつかきっと”

—平和への思いを育てる—

絵本“いつかきっと”を手に取りページをめくり、立ち読みしたのは今年2月のことでした。そして私の心深くをわしづかみにし、「絵本塾・おはなしのへや」で用いたいと思わせたのです。

絵本: いつかきっと  
ティエル・ルナン 文  
オリヴィエ・タレック 絵  
平岡 敦 訳 童心社

「小さな島に、子どもがひとり、すわっていた。子どもは世界をながめ、考えた。」で物語は始まります。子どもは、世界・世の中で起こっているいろいろな出来事、社会の在り方、自然の状況、人と人との関わりなどに広く目を向け、しっかりと見て、じゃあ自分は「いつかきっと」「・・・こうしよう」と思うのです。

世界で起こっている事とは、たとえば戦争や兵士たちがいると、軍服を明るく塗り替え、銃の先を小鳥の止まり木に、羊飼いの笛にしてしまおう。飢えや貧しさに苦しむ人がいると、砂漠に雨を降らせられる川を引こう、数を覚え、計算を習ってお金やパン、土地や空気を分け合って生きよう。権力をかさねて力をふるう人たちの目を開かせよう。広い海、汚れた水をきれいにしよう、草に寝ころび、木々の声に耳をかたむけよう・・・と思います。涙を流す人を見たら、頬を寄せて抱き合うことをためらってはいけないと思います。愛していると言われたことがなくても、いつか、愛していると言えるようになりたいとも思っています。

そうしてこの物語の最後、「最後にもう一度、子どもは島から世界をながめた。そして、心に決めた・・・・・・ここに、生まれてこようと。」さざ波のように静かに寄せてくる感動を味わいました。

「平和」を考える時、私たちは戦争や紛争がないということだけを考えがちですが、それが「平和」の根っこではないと考えています。もちろん、戦争・紛争などが無いのがベストです。それを引き起こす原因は何かを考えるとところから「平和」の本質が見えてくるのではと思います。「平和」を広辞苑では「安らかに和らぐこと、穏やかで変わりがないこと」とあります。絵本“いつかきっと”の主人公の子どもの視線は、戦争、飢え、貧しさ、権力などの人の社会の在り方、海や森などの自然を大切にすること、人と人との愛のかかわり方などに向けられています。この世界の「平和」を壊す究極のものは戦争だと思いますが、それを引き起こす根っこの部分が私たちの社会、すぐ身の回りに横たわっていることに私たちは気づかないといけません。その根っこは、分かち合うことを知らない欲望であったり、自分とは異質と思える人を排除したり、助け合えなかつたりすること、さまざまな差別など、考える限りなくあるような気がします。

私たちが今育てている愛する子どもたちが、今生きているこの世界を愛し、「平和」を慕い、愛する人に成長するために、私たち大人には、「平和に生きる佇まい」を示す役割があるのではと思っています。

望月鈴子  
狼と子羊は共に草をはみ、  
獅子は牛のようにおらを食べ、蛇は塵を食物とし  
わたしの聖なる山のどこにおいても  
害することも滅ぼすこともない、と主は言われる。(聖書)

